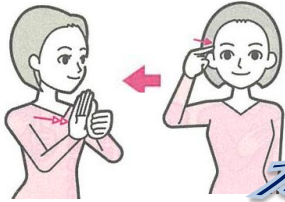


思いやり



左手の立てた親指の背を右手掌で
2回たたく



「おかえり」「ただいま」と言い合える松ろうに
松江ろう学校はシトラスリボンプロジェクトを応援します

手と心でつながる わかりあえる喜び

～笑顔あふれる松ろう～

かきばらの風

第49号 令和3年8月31日

松江ろう学校 校長だより 福島朗博

2学期が始まります 素敵な表情と手話で「思いやり」を

猛暑と豪雨の異様さが印象に残った夏休みでした。PTA「家族の集い」や地域の夏祭りなどの行事が二年続きで中止となるなかで、子どもたちには夏らしい思い出が少しでもできるといいなと願っていましたが、いかがお過ごしでしたでしょうか。

その間、学校では、4月から始まった管理棟の長寿命化工事も佳境に入り、長年の雨漏りが浸み込んで傷んでいた校内の壁が見違えるようにきれいになりました。またコロナ感染対策の一環で、寄宿舍の舎生の部屋が畳からフローリングに、机とベッドも付きました。浴場も風呂が新しくなり、天井や壁も貼り替えられて、舎生は2学期から快適に過ごせそうです。



寄宿舍が
きれいに
なりました

さて、この度の変異株による感染拡大は深刻で、これまで比較的影響を受けることが少なかった子どもたちにも及んでいます。また「無症状」の感染者による感染拡大も心配されるところで、より一層の感染対策を講じながらの2学期スタートになります。

2学期の始業式では、これまで以上に丁寧な「手洗い」と「消毒」の他、「換気」も自主的にできること、マスク生活は続くけども、自分たちがもっている素敵な表情と手話で、相手の心に届くような「さわやかなあいさつ」と「思いやり」を大切にしてほしいことを子どもたちに伝えました。キーワードは、感染を「持ち込まない!」「広げない!」です。スクールメールでのお伝えと重なりますが、ご家庭でもどうぞ一層のご留意のほどよろしくお願い申し上げます。

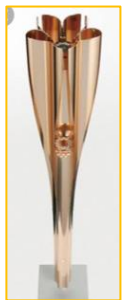
なかま(ともだち)



■東京オリパラ聖火リレートーチを体験！（7月20日1学期終業式）

島根県の聖火リレーで松江市内を走られたモルツウエル株式会社社長の野津積様のご厚意により、トーチを拝借しました。1学期終業式の式辞で、子どもたちに、夏休み期間中に行われるオリパラの話題提供に合わせて、リレートーチを紹介しました。東日本震災の仮設住宅のアルミで作られたとされるトーチが放つ眩い光沢に子どもたちの目は引き付けられていました。

式が終わって、会場片づけの手伝いを済ませた中学部高等部の生徒は、ご褒美代わりに(?)にトーチを手に館内を走ったり友達に回したりして興奮のるつぼ状態に。その後、トーチは小学部の各教室をゆっくりとかけ巡りました。最後は幼稚部棟へ運ばれ、付き添いの保護者も親子で記念写真に納めては次の組へつないで…と、トーチはサプライズ付きの思い出づくりをリレー演出してくれました。夏休みにオリパラの開会式を視聴した子どもたちは、聖火リレーランナーの高く揚げたトーチを見て、思い出してくれたことでしょうか。野津社長様には、子どもたちに貴重な体験を分けていただきましたことに感謝いたします。



中学部・高等部から

小学部へ

小学部から

幼稚部へ

チームワークもばっちり！ 大会直前には松江マープルTV「部活動紹介」で健闘を誓いました！



■中ろう体（山口大会）卓球部頑張りました！（8月7・8日宇部市）

第71回中国地区ろう学校体育大会が2年ぶりに山口県宇部市で行われました。近年の猛暑対策として、これまで一緒に行っていた陸上競技を分けて、今回から卓球競技のみの開催運営となりました。コロナ禍のため、参加は3県のみ5校にとどまり、無観客の試合でしたが、中学部高等部の7名の選手たちはろう学校同士の大会を楽しみに練習に励んできただけあって、はつらつと戦い、個人戦で公式戦初勝利を挙げた選手もいました。団体戦では男子も女子も善戦しましたが、あと一歩及びませんでした。今回の経験をこれからの練習につなげてほしいと思います。なお来年度は、本校が主管校で大会事務局を務め、松江市を会場にして行う予定です。

■全日本聾教育研究大会島根大会（10月14・15日）に向けて～7月と8月の取組～

10月に迫った全国研究大会は、本来なら本校を会場に、全国から300名くらいの参加者が来校されて授業を見学し、授業研究会などを行う予定でしたが、WEB開催に変わりました。どのように大会を行うのか、保護者の方にはわかりづらいと思いますので、運営内容や取組状況についてお伝えしたいと思います。

○7月は各学部の公開授業と寄宿舎の研究会で助言講師にご指導いただきました

全国の参加者に観ていただく予定だった公開授業は、大会事前にオンデマンド配信します。その関係で、7月に幼稚部から高等部までの公開授業を順次行ってビデオ撮りしました。子どもたちは授業者をはじめ私たち教員の意気込みに応えるかのように、集中して発言や活動してくれました。そして、寄宿舎も含めて3年以上の長きにわたって本校の研究のために通ってくださった助言講師からは、今回の授業や研究においても厳しくかつ温かいご指導をいただきました。おかげで、「松ろうらしさ」溢れた実践の内容となり、大会本番の授業研究分科会では、全国の参加者総計3000名に向けて、3年間の集大成となる研究発表を行います。

幼稚部お話しあそび



小学部国語



中学部道徳



高等部合同ワーク

○島根県聴覚障がい教育研究会（兼全日聾研大会記念講演）を行いました（7月26日）

信州大学の庄司和史先生に「これからの聴覚障がい教育～「育てる」から「育つ」を支える教育へ～」と題した講演を、浜田ろう学校や小中学校難聴学級の先生、島根大学や県立大学の学生を対象に、リモートにて各会場で行いました。

「聴覚障がいは人とのつながりの問題を生じさせる。言葉や発達はつながりの中で育つものであるから、『つながりを補償する』ことが大事である。」「子どもたちには自分の『思い』を表す意欲をもち、自分の『思い』を伝える手段、相手の『思い』を知る手段を『つながる』ために身につけてほしい。」などと示唆に富んだお話をいただきました。全国大会にはビデオ編集してオンデマンド配信をします。



○8月は連日 ZOOM 接続テストやビデオ編集などに取り組みました

夏休み期間を利用して、各学部や寄宿舎で、参加申込のあった学校や大学等と大会本番に備えたネットの接続テストや、手話や文字の情報保障を入れた授業ビデオの編集作成などをチームで協同して進めました。本校のICT活用にも応用していけるようにと思っています。

福田与志 松江マープルTV 公開授業

偉人学 1

障がい児教育に生涯捧げる

週間さんいん学聞 (8月18日付)の「さんいん偉人学」に、本校の創立者である福田与志先生がついに紹介されました！本校ホームページでもご覧になれます。

福田与志の学び



←このおたより「かきばらの風」のバックナンバーは松江ろう学校ホームページでご覧になれます。